

〈編集後記〉

月報 9 月号をお届けします。

湯所員の論稿は、技術キャッチアップの観点から中国の液晶産業の発展について分析したものです。小生自身は、ガーシェンクロンの「工業化モデル」を学生時代に勉強した記憶がありますが、今日的な文脈で後発国の工業化をいかに理解するのか、という点で本稿は示唆に富むものでした。本稿は、議論を展開する前提として、後発国の産業発展と技術キャッチアップに関する先行研究を丁寧に整理しており、門外漢の小生にもわかりやすい内容となっています。また、研究開発における長期的視野に立った投資活動の重要性や、産業集積の活用と並行して地域外部との連携をも推進する企業レベルでのイノベーションの必要性など、堅実な実証分析に基づく指摘は説得的です。

(Y.S)

神奈川県川崎市多摩区東三田 2 丁目 1 番 1 号 電話 (044)911-1089

専修大学社会科学研究所

(発行者) 柴田弘捷

製作 佐藤印刷株式会社

東京都渋谷区神宮前 2-10-2 電話 (03)3404-2561
